

# 1

## 教科を通して自己の学びを創造する、探究的な学び ～問いを起点として学びを切り拓き、自分の考えを育む児童～

知識を活用することができていますか？

本当に、一人一人が思考を深めていますか？

調べたり、聞いたりして得た情報を、そのまま「答え」としていませんか？



活動は進む。思考は・・・？

一部の児童だけの発言で授業を進めていませんか？

なんとなくの振り返りになっていませんか？

自ら考え、判断する時間を大切にできていますか？



### そうだ探究、しよう。

#### 児童の実態

- ・すでに育っている能力
- ・育ちつつある能力
- ・生活環境、学習環境



#### 探究的な学びを実現する単元の設計

- ・知識の定着、思考の深まり、習得の質の高まりが期待できる
- ・自分の学び方を創造することができる
- ・思考を深め、考え続けることができる



児童が主体的に学ぶことができる場を整える

#### 指導観、教材観

- ・教科をどう捉えるか
- ・教材を通して何を学ぶのか



#### 教師の役割

見えない形で  
学びを支えるために

★学びが動き出す状況をつくる★!

- ・児童の対話をつなぎ続ける。
- ・思考の揺らぎを丁寧に拾い上げる。
- ・「わかったつもり」を見逃さず、本当に理解できているかを丁寧に見取る。

児童が「自分でやった!」と思えているとき、そこには教師の、**見えない関与**がある。

“教師の関わりが少ない授業”ではなく、児童が**自分を学びの主体だと感じられる環境を整える。**

#### 問いの創出

自分で解き方を選び、思考が広がるきっかけ。自分の答えを見つけるための道しるべ。

#### 対話

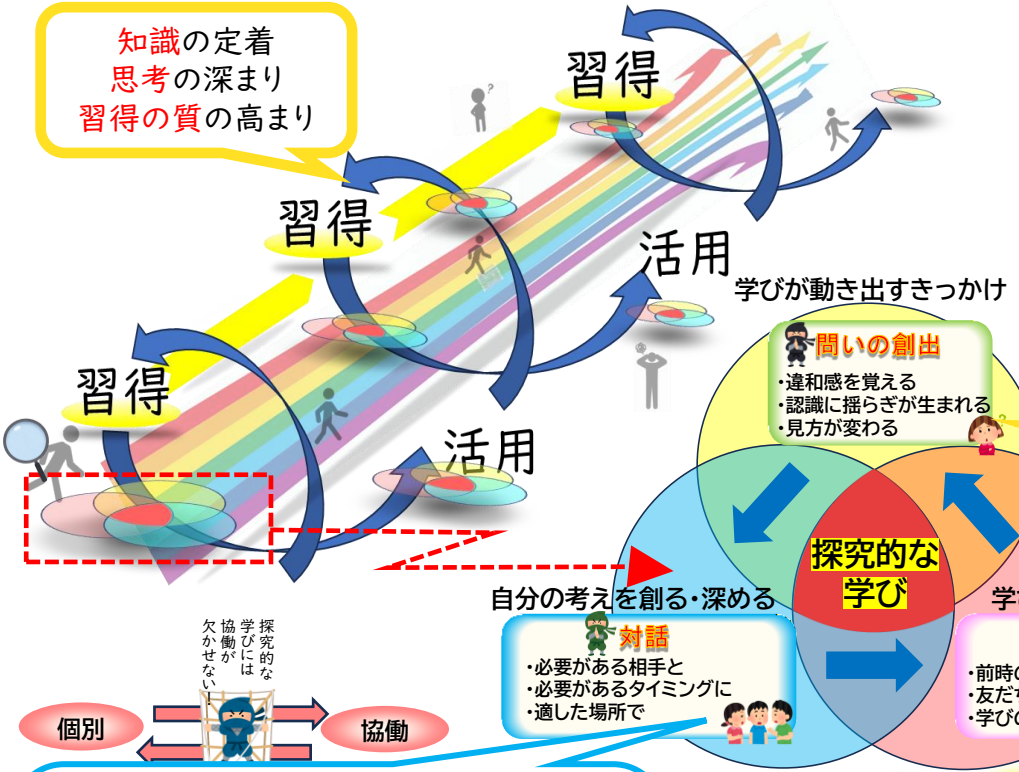
他者の考えとの相互作用を通して、自分の考えを問い直し再構築する。

#### 振り返り

“ふりかえり”という単なる習慣ではなく、学びを次へとつなぐ動機付け。

## 教科を通して自己の学びを創造する、**探究的な学び** ~問いを起点として学びを切り拓き、自分の考えを育む児童~

知識の定着  
 思考の深まり  
 習得の質の高まり



### 探究的な学びを捉えるための4つの視点

- 問いの創出**
  - 自分なりに課題や問いを見出そうとしているか。
  - 学びを深める方向へ問いを広げたり修正したりしているか。
- 考えをつくる過程**
  - 情報を収集・整理し、仮説や予想を立てて考えているか。
  - 筋道を立てて検証や考察を進めているか。
- 他者との関わり**
  - 友だちの意見を聴き、自分の考えを調整・発展させているか。
  - 協働を通して、新たな見方や考えを生み出しているか。
- まとめとふりかえり**
  - 学びの成果をわかりやすく表現し、共有しているか。
  - 学びをふりかえり、次の課題や生活・社会へのつながりを見出しているか。

学びの過程を根拠をもって見取るために

### 「問い」の働き

児童の思考と学びを前に進めるもの

問いが思考を動かしているかを見取る

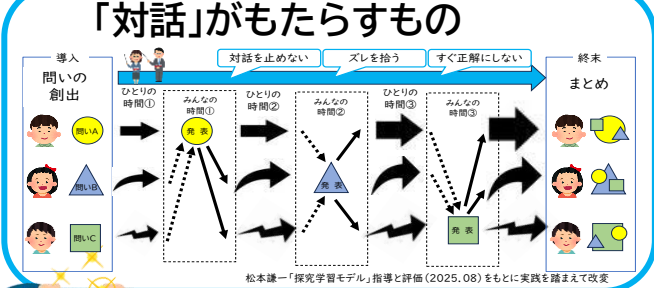
何をするかより、**どう考え続けるか**

手を離すのではなく、**手を出す場を選ぶ**

### ふりかえり (振り返り支援ツール)

他者参照することで、対話する相手を、**目的をもって選ぶ**ことができる!

自分と友だちの学びにエネルギーを送る気持ちで!



### 児童に身に付いた力

(児童の振り返りとアンケート結果からの分析)

- 自ら思考を深める力
- 他者と関わりながら考えを更新する力
- 根拠をもって表現する力
- 自らの学びを振り返る力
- 教科、単元を越えて活用される学び方の習得

など

他者参照ができる!

授業の始まりが変わる!

入力時に競合しない!

セルの項目はカスタマイズ可!

教師の業務効率化!

一画面で学級全体の学びが把握できる。

振り返り用紙を用意したり持ち歩いたりしなくてよい。

(HPからダウンロードできます)

研究の詳細はこちら

探究的な学びを特別な活動として追加するのではない!  
 形式的に導入すると、教科の本質が薄れてしまう可能性も...  
 各教科の目標に即して、どんどん探究的な学びを探究していこう!  
 詳細は、左のQRコード、または京都市総合教育センター研究課まで★

